

ベストクラス選定理由書

作成者：石橋由紀子

科目名称	自然地理学概説		
	(担当教員名： 吉水裕也)		
課 程	： 学部	開講時期	： 前期
授業形態	： 講義	授業規模	： 30人以下
インタビュー対象教員名	吉水裕也		
	(実施日時：平成30年7月24日 10時40分～12時10分 ; 実施場所：吉水研究室)		
インタビュー対象受講者名	井奥望実		
	(実施日時：平成30年7月24日 10時40分～12時10分 ; 実施場所：吉水研究室)		
選定理由	<p>授業者へのインタビューから (授業における工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の大きな目標は「地形図から等高線を読むことができるという実感を学生にもたせること」であると語られた。 ・ 授業初回に配布される「授業の予定」に記されている各回のテーマが工夫されており、授業に関心を持って臨む工夫がなされていた (例：「日本一の棚田が出来た秘密」「等高線のないところで高低を読み取れ!」「スマホで地球の大きさを測れるか!？」等) ・ 地理について高校で学んでいない学生が多いことを考慮し、特に授業の1～3回目は地理への導入を意識し、学生が取りかかりやすい内容が設定されていた。具体的には、初回は大学周辺の等高模型を弁当箱のふたを利用して作成する、2回目は大学周辺をフィールドワークし、地理的特徴について体験的に理解する、等である。 ・ また、毎回の授業で等高線を扱うことから、途中で「等高線はもう飽きてしまった」と感想を述べる学生がいるため、あえて7回目の授業では「等高線のないところで高低を読み取れ!」というテーマを入れており、15回を見通した授業が組み立てられていた。 ・ 各回においてテーマに基づいて地形図を読み取るといった作業の時間が確保されていた。 ・ 授業において授業者が撮影した写真が多く用いられており、学生の興味を引いていた。 ・ 毎回授業の感想を求め、そこから来年度への授業づくりへのヒントを得ていた。 <p>受講生へのインタビューから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校時代に地理を学んでいない学生であったが、授業を通して地形への関心が高まり、「なぜこのような地形になっているのか」と疑問がもてるようになった。 ・ 作業を通し、実感を伴った理解ができるようになっていた。 ・ 教材が、授業者が撮影した写真、100円均一のボール、弁当箱のフタであるなど、教員への授業づくりへの姿勢を学び、また親近感も得ている様子であった。 		